

令和 7 年度 第 1 回宮城県産業教育審議会会議録

宮城県教育委員会

Ⅰ 日 時 令和 7 年 1 1 月 1 1 日（火）
午後 2 時 4 0 分から午後 4 時 2 0 分まで

Ⅱ 会 場 宮城県工業高等学校 4 階 大会議室

Ⅲ 次 第

1 開 会

2 委嘱状の交付、委員紹介

3 開会挨拶

4 議 事

(1) 報 告

- ① 令和 7 年 3 月の提言について
- ② みやぎ専門高校魅力発表会について
- ③ 専門教育次世代人財育成プロジェクト事業について

(2) 審 議

- ① 答申を実現するための提言を踏まえた産業教育の方向性について
～ 県工業高校の取組から見えてくるもの ～
- ② 今後の産業教育の在り方について
～ （仮称）第 4 期県立高校将来構想答申中間案（素案）を踏まえて ～

5 そ の 他

6 閉 会

【資料一覧】

資料 1	産業教育振興法（抜粋） 産業教育審議会条例・産業教育審議会規則 情報公開条例（抜粋）
資料 2－1	令和 4 年 5 月答申「今後の産業教育の在り方について」【概要版】
資料 2－2	令和 4 年 5 月答申「今後の産業教育の在り方について」
資料 3－1	令和 7 年 3 月提言『今後の急速な少子化を踏まえた産業教育の在り方』について 【概要版】
資料 3－2	令和 7 年 3 月提言『今後の急速な少子化を踏まえた産業教育の在り方』について
資料 4－1	（仮称）第 4 期県立高校将来構想答申中間案（素案）【概要版】
資料 4－2	（仮称）第 4 期県立高校将来構想答申中間案（素案）
資料 5	みやぎ専門高校魅力発表会について
資料 6	専門教育次世代人財プロジェクト事業について
資料 7	意見用紙

(進行)
事務局 渡邊総括

< 視 察 >

会に先立ちまして、本日の資料並びに日程の確認をさせていただきます。本日お配りしております資料は、表紙に次第があります会議関係の綴り1冊でございます。表紙をめくりますと、本日の座席表、審議会委員名簿に続きまして、右肩に四角囲みで資料番号が振っております。資料の内容については、表紙に記したとおりになっております。

追加資料として県工業高等学校からクリアファイルに「学校案内」「学校要覧」の資料がございます。不足等があれば申し付けください。

次に、マイクの使用について、お願いがございます。

本日は御発言用にマイクを用意しております。御発言の際には、担当者がマイクをお渡しいたしますので、挙手等にてお知らせ願います。

1 開 会
(進行)
事務局 渡邊総括

改めまして、委員の皆様、本日は御多用のところ御出席いただきまして、大変ありがとうございます。

それでは、令和7年度第1回宮城県産業教育審議会を開催いたします。

はじめに、会議の成立について御報告申し上げます。

本日は、委員定数12名中8名の委員に御出席いただいておりますので、産業教育審議会規則第5条第2項の規定により、本日の会議は成立しておりますことを御報告申し上げます。また、本審議会につきましては、情報公開条例第19条の規定により、公開となりますので、よろしくお願いいたします。

2 委嘱状の交付
(進行)
事務局 渡邊総括

本日は今年度初めての審議会となります。はじめに、審議会委員をお引き受けいただきました皆様に委嘱状を交付させていただきます。本来ならば、お一人お一人にお渡しすべきところ、大変恐縮でございますが、時間の関係で委嘱状を机上に置かせていただき、各委員のお名前を御紹介申し上げることによって交付に代えさせていただきます。

事務局 村上

それでは、お手元の名簿順に委員の皆様のお名前を読み上げさせていただきます。

- ・宮城県商工会議所連合会 常任幹事 今野 薫 委員です。本日欠席です。
 - ・宮城県中小企業団体中央会 専務理事 高橋 裕喜 委員です。本日欠席です。高橋裕喜委員につきましては、新委員として御就任いただいております。
 - ・宮城県漁業協同組合女性部連絡協議会 会長 三浦 弘子 委員です。三浦委員は、オンラインでの審議会への参加になります。
 - ・宮城県農業協同組合中央会 常務理事 高橋 慎 委員です。
 - ・宮城県専修学校各種学校連合会 副会長 加藤 雄一 委員です。加藤委員は、オンラインでの審議会への参加になります。加藤委員につきましては、ただいま新幹線で移動中になっておりますので、途中で映像と音声がかかるかもしれませんが、御了承をお願いいたします。
 - ・宮城大学食産業学群 教授 川島 滋和 委員 です。
 - ・東北文化学園大学経営法学部 准教授 佐藤 千洋 委員です。
 - ・宮城教育大学教育学部 准教授 山内 明美 委員です。本日欠席です。
 - ・東北福祉大学総合福祉学部 准教授 後藤 美恵子 委員です。
 - ・東北大学金属材料研究所 教授 梅津 理恵 委員です。本日欠席です。
 - ・宮城県経済商工観光部 副部長 島瀬 康史 委員です。
 - ・宮城県高等学校長協会より宮城県名取高等学校 校長 勅使瓦 理恵 委員です。
- 以上12名の皆様です。

**3 開会挨拶
(進行)
事務局 渡邊総括**

遠藤秀樹副教育長

次に宮城県教育委員会副教育長 遠藤 秀樹 が開会の御挨拶を申し上げます。

皆さん、こんにちは。副教育長の遠藤でございます。どうぞよろしくお願いいたします。本当にお忙しい中、本日は御出席をいただきまして誠にありがとうございます。また、日頃より本県の産業教育の充実・発展のために、御理解・御支援をいただいておりますことに改めまして御礼申し上げます。本当にありがとうございます。さて、昨年度、専門委員会、それから審議会におきまして、令和4年5月に審議会から答申をいただきました、その内容を補完するという形で、今後の急速な少子化を踏まえた産業教育の在り方について、提言を取りまとめていただきまして、3月に川島会長から教育長に手渡していただいたというところでございます。

その提言におきましては、少子化を踏まえた魅力ある新たな学びの方策、専門高校と地域、産業界等との連携、協働の取組強化、そして産業人材育成のための学校、学びの在り方という三つの柱が示されており、本県産業教育が社会構造の大きな変化に柔軟に、力強く対応しながら、地域社会との連携協働を一層深め、地域の未来を担う産業人材を育成していくための極めて重要な方向性をお示しいただいたと感じているところでございます。

現在、教育委員会におきましては、今後急速に進行する少子化を見据え、新たな県立高校将来構想の策定に向け、将来構想審議会、これは別な審議会でございますが、そちらにおきまして御議論をいただいているところでございます。いただいた御提言も、その構想での議論に関わる重要なものになると位置付けているところでございます。本日、委員の皆様には、提言の具現化に向けまして、一つの実践例として、県工業高校の授業内容等を御覧いただきました。限られた時間でございますが、本日の視察の内容等も踏まえまして、今後の専門高校の在り方、教育の方向性につきまして、幅広く様々な観点から御意見等をいただければと思っております。本県産業教育のさらなる充実のために、ぜひ多角的な視点から忌憚ない御意見を賜りますようお願い申し上げます。簡単ではございますが、開会にあたっての挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

**(進行)
事務局 渡邊総括**

次に、産業教育審議会規則第4条に基づき、審議会の会長及び副会長を委員の互選により定めることになっておりますが、いかがいたしましょうか。

特になければ、事務局から原案を示させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

ありがとうございます。それでは、事務局から原案を申し上げます。事務局といたしましては、会長を川島滋和委員に、副会長を高橋慎委員にお願いしてはいかがでしょうか。

ありがとうございます。異議なしということでございますので、会長を川島委員、副会長を高橋委員にお願いしたいと思います。それでは、川島会長から御挨拶を頂戴できればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

川島滋和会長

ただいま、本産業教育審議会の会長を仰せつかりました、宮城大学食産業学群の川島と申します。会長就任にあたり、一言御挨拶申し上げます。

本県の産業教育は、各分野において地域産業を支える人材の育成を使命として、実践的体験的な学びを積み重ねてきました。令和4年5月には、今後の産業教育の在り方について答申を取りまとめ、県教育委員会においてもその具現化に向けた取組が進められておりました。しかしながら、急速な少子化の進行やAI等の最先端技術の登場により、社会や産業構造が大きく変化しつつあります。こうした状況を踏まえ、令和7年3月に先の答申を補完する形で、今後の急速な少子化を踏まえた産業教育の在り方についての提言を取りまとめました。この提言では、少子化を逆手に取り、地域や産業界との連携を一層深めることで生徒の実体験を増やし、柔軟で多様な学びを実現することが重要であると示されました。具体的には、学校、学科の枠を超えた協働的な学びの推進、DXやAI等の先端技術への対応、地域資源を生かした探究活動、大学や企業との連携による教育課程の充実など、多岐にわたる方策が提言されています。また、専門高校の集約が進む中でも、地域ごとの専門高校の学びの機会を確保するための柔軟な制度設計や魅力発信の工夫も求められています。こうした取組は、地域の活力を維持し、持続可能な社会を作り出すなど、人材の育成にもつながるものと考えております。今後も審議会として、教育現場、産業界、地域社会の声を丁寧に受け止めながら、時代の要請に応える産業教育の方向性を示していければと思います。私自身も委員の皆様と共に知恵を出し合い、ふるさと宮城の未来を担う人材育成に尽力してまいります。委員の皆様には、それぞれの専門の立場から御意見をいただくこととなりますが、運営への御協力と忌憚のない御意見をお願いいたします。まして、挨拶といたします。どうぞよろしくお願いいたします。

(進行)
事務局 渡邊総括

川島会長ありがとうございました。それでは、これより議事に入ります。以降の進行につきましては、審議会規則第5条により会長が議長を務めることになっておりますので、ここからは川島会長にお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

議長 川島会長

それではここから議長を務めます。よろしくお願いいたします。会議次第4の(1)報告について、①から③まで一括で事務局から報告をお願いいたします。

事務局 村上

はい。事務局の高校教育課キャリア教育班の村上です。本日は、よろしくお願いいたします。それでは、①から③まで一括してお話しさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

まず、令和7年3月提言「今後の急速な少子化を踏まえた産業教育の在り方」について、簡単に内容等を確認させていただきます。

資料2-1概要版を御覧ください。まず、令和3年6月に今後の産業教育の在り方について諮問し、令和4年5月に答申をいただきました。答申では、本県産業教育の現状と課題を左のようにまとめ、令和10年までの中学校卒業者見込数推移を勘案しながら、「社会の変化に対応した人材育成」として、専門学科・専門高校で求められる基礎的・基本的な資質・能力の育成、次代の産業を担う人材に必要とされる資質・能力の育成の二つを育成していくことを確認いたしました。また、産業界や異校種間交流などを促進し、関係機関と学校をつなぐための教員の指導力向上、産業教育に必要な施設整備についても答申をいただき、各校において様々な取組を展開しているところでございました。

次に、資料3-1概要版を御覧ください。しかしながら、本県において答申を取りまとめた当時に見込まれた時よりも急速に少子化が進行していることや、AI等の技術革新により社会構造が大きく変化することが予想されたため、令和5年の審議会において専門委員会の設置を決め、令和6年度に4回の専門委員

会の調査・研究及び3回の審議会での審議を経て、令和7年3月に先の答申を補完するための提言『今後の急速な少子化を踏まえた産業教育の在り方』をまとめました。

この提言をまとめるにあたり、委員の皆様には、「少子化」を少ない生徒に手をかけることができる機会とプラスに捉え、地域や産業界との連携を一層深め、生徒の実体験を増やすことができれば、多様で柔軟な学びを深めることができるとともに、各学校の新たな魅力づくりになるのではないかと、専門高校や専門学科で学ぶ生徒や教職員への期待を込めた前向きな御意見を頂戴いたしました。提言については、子供たちを取り巻く急激な社会変化に対して、産業教育を通じて求められる育成すべき人材について、3つの柱でまとめていただきました。

1つ目は、「少子化を踏まえた魅力ある新たな学びの方策」として、学校間・学科間の協働、産学官との連携・協働による学びの推進や、デジタル技術に対応できる人材育成の在り方、地域協働型教育の在り方についてまとめていただきました。

2つ目の柱は、「専門高校と地域・産業界等の連携・協働の取組強化」として、柔軟な教育課程の編成の必要性や、学校間・学科間での施設整備等の共有、産業界等との連携した教育課程の実践についてまとめていただきました。

最後に3つ目の柱として、「産業人材育成のための学校・学びの在り方」について、地域にある環境資源等の利活用、専門学科等の在り方、そして魅力発信の在り方についてまとめていただきました。

いただいた提言をもとに、変化する社会に求められる生徒の資質・能力の向上に向けて、具体的な教育活動に努めるとともに、地域産業の持続的な発展を支える職業人の育成に向け、今後の施策に反映していきたいと考えております。まず、答申及びその提言についての説明とさせていただきます。

次に、②、③は、答申及び提言を受けて高校教育課が実施している事業の報告となります。

資料5を御覧ください。「令和7年度みやぎ専門高校魅力発表会」について御報告いたします。令和7年7月22日火曜日、県庁1階県民ロビーにおいて、県内の専門高校等で学んでいる生徒の学習成果を発表する場として、各校が一堂に会する行事を開催いたしました。

今年度は31校の協力を得て、学校紹介資料のモニター投影、各学科や系列の紹介パネルの展示とともに、作品の展示・体験、生産物等の販売を行いました。

発表会当日には、18校から58名の生徒が、農産物や加工食品の販売のほか、橋梁模型や被服作品の展示、手話やロープワークの体験、VRによる観光ガイドなどを通じて、それぞれの学びの成果を発信しました。

会場には延べ633名もの来場者がありまして、生徒は多くの来場者と交流することで、自校のPRとともに自己有用感を高め、他校の取組を知る貴重な機会となったと思います。今後も開催時期や場所等について検討をおこない、学習活動やその成果を広く県民の皆様にも周知し、産業教育の振興を図っていきたいと考えております。

続きまして、資料6を御覧ください。「専門教育次世代人財育成プロジェクト」について御報告いたします。令和6年度より令和8年度までの3カ年の事業として、石巻地域4校の専門高校が主体となり、地域を学びのフィールドとした学校間連携の教育活動を通して、地域の課題に応じることにより生徒のキャリア形成の支援を行うとともに、地域活性化の担い手として、分野や領域の壁を越え、人や組織の協働を創出し、地域産業の振興を推進できる人材を育成する「専門教育次世代人財プロジェクト」事業を展開しております。いしのまき人財育成

事務局 村上

パートナーシップ協議会を構築し、農業、工業、商業、そして水産のそれぞれの分野で学んでいる4校の生徒が協働して、地域課題に挑んでおります。

資料の3ページ目、5の令和6年度の活動実績を御覧ください。令和6年は12回の生徒委員会を開催し、プロジェクトの成果中間発表会を石巻かわまち交流広場で行いました。当日は、商品開発チームによる地域の特産物を使用したアヒージョの試食や子ども向けイベントチームによるスタンプラリー、広報・企画ブランディングチームによる広報、チラシづくりと配布等、4校の生徒が協働し、それぞれの立場から意見を出し合いながら活動しました。

実施後のアンケート等で課題になった点を踏まえ、今年度は資料の中ほどにありますとおり、学校同士の更なる連携や産業界、石巻市、石巻市教育委員会との協働を強化し、地域課題に気づき、地域の活性化に取り組むことのできる人材育成のため、地域および学校間で連携しながら事業を展開しております。

今年度、ここまでの活動についての成果をまとめた発表会を資料の4ページにチラシにありますとおり、11月15日土曜日にサンエー石巻あけぼの店で開催いたしますので、御紹介申し上げます。

私から報告は以上となります。

議長 川島会長

ありがとうございました。ただいま、①から③まで一括した報告がありました。何か御質問等あれば、お願いいたします。

よろしいでしょうか。この後でも御質問等、随時受け付けますので、御発言なさる方は挙手の方お願いいたします。

では次に、審議に移りたいと思います。「答申を実現するための提言を踏まえた産業教育の方向性について～県工業高校の取組から見えてくるもの～」について、まずは県工業高校から御説明をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

**県工業高校
竹内正基 教頭**

こんにちは。本日はようこそ宮城県工業高校にお越しいただきました。これから本校の紹介をさせていただきますが、前半は学校全般について、後半は提言を踏まえた本校の取組について御紹介を申し上げます。私、本校の教頭竹内正基と申します。もう一人教頭の津田良二と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本校は大正2年に創立され、長い歴史と伝統を持つ県内有数の工業高校です。これまで2万5000名を超える卒業生を送り出し、各分野で活躍をしています。また、今年5月には台湾にある南港高級工業職業学校と姉妹校を締結いたしました。さらには、各分野の専門的な技術を競う技能五輪アジア大会に情報技術科3年生が出場予定など、国際的な視野を広げることに力を入れております。学校のスローガンは、「ものづくり、ひとづくり、ゆめづくり」です。校訓は、「誠実、節度、創造」であり、生徒と私たち教員が一丸となって目標の実現に向け日々努力をしています。

こちらが校舎の全体図です。先程、総合実習棟を御覧いただきました。また、今私たちがいる所は大会議室と呼ばれるところです。本校は6つの学科で成り立っております。本日は残念ながら電子機械科と化学工業科を御覧いただくことができませんでしたが、全部で6つの学科となっております。こちらが現在の生徒在籍数になります。約900名の生徒がおりまして、女子生徒も徐々に増えてきてまして、約4分の1が女子生徒というような状況になっております。

こちらは、本校の主な行事です。運動会、球技大会、宮工祭があり、生徒たちは一生懸命に準備をし、頑張っております。こちらは運動会の様子です。本当に生徒たちのエネルギーを強く感じる一日です。こちらは文化祭になります。上の段を御覧いただきますと、工業高校らしい文化祭を感じていただけるかと思います。今年は本来であれば10月25日に開催予定でしたが、本校でインフルエンザが大流行したため、今週の土曜日に延期しました。今週末開催のため、生徒たちは今準備の真っ最中です。

こちら県工生スタンダードとなります。本校で学ぶ生徒が日々の学習における自らの立ち位置の確認をして、サポートを受けながら充実した高校生活を送ることができるよう体制を明確にいたしました。ポイントは、生徒がこの中の基本でも充実でも実践でも、どの立ち位置でも構わないということです。生徒一人一人が、自分の立ち位置で充実した学校生活を送るということを本校は大事にしております。

こちらは、本校で取得できる主な資格です。講習など先生方のサポートもあり、多くの資格を取得しています。右下に映っている賞状は、全国工業高等学校長協会のジュニアマイスター顕彰制度の写真で、多くの資格を取得した生徒が認定を受けるとするような制度も活用しております。

こちらは部活動になります。15の運動部があります。中には県大会や東北大会でも活躍するような部活もございます。こちらは文化部になります。文化部は19の部と3つの愛好会、そして生徒会から成り立っております。運動部同様に、一生懸命生徒たちは頑張っております。

文化部の中には、工業に関する部活があります。先程、御覧いただいた学科に直結するような部活です。メダルをかけた生徒がいましたが、機械技術部に所属し、一生懸命に技術を磨き、御覧のような「若年者ものづくり競技大会」に出場し、日本一になりました。今日は御紹介できませんでしたが、御覧のような機械製図職種や、業務用ITソフトウェアソリューションズ職種などで数々の賞をいただいています。こちらが実際に参加した生徒たちの様子です。メダルをかけていた生徒は、左側のフライス盤職種です。競技中はこのような様子で行っています。こちらは機械製図職種、隣は業務用ITソフトウェアソリューションズ職種です。どちらもパソコンに向かって一生懸命作業している様子となっておりますが、中身は全然違います。

こちらは教育長に御報告に参った時の様子です。この表敬訪問は、「若年者ものづくり競技大会」で同じく成果をあげた古川工業高校、気仙沼洋行高校と一緒に伺いました。競い合って高め合う中で、工業系の学校と一緒に表敬訪問できたことは非常に嬉しく思っております。

続けて、本校の進路状況です。生徒一人一人が自分の望む進路を達成しております。これは昨年度の結果です。こちらは就職の状況です。本校には多くの企業様から求人票をいただいております。昨年度は2,000社を超える求人票をいただきました。今年度は昨年度を超えて、おそらく3,000社を超えるだろうというところです。

続けて進学状況です。「専門教科をさらに深く学びたい」、「希望する仕事に就くために大学卒業が必要だ」など、様々な理由で進学を希望する生徒もおります。その生徒一人一人に、教職員一同、応えられるように指導していますが、生徒たちはそれ以上に頑張って、自らの進路を決定しております。

ここからが提言を踏まえた本校の取組になります。最初に外部との連携です。例えば、御覧のようにクラフトマン21事業や、ものづくりマイスター制度の活用などをふんだんに活用しています。これは、社会の中にある教育力を十分に活用していることになると考えております。おかげさまで専門性の高い指導を受けることができっております。本当に多くの生徒たちがこの指導を受けて、技術力であったり、知識であったりを高めております。

こちらはクラフトマン21事業の全てのプログラムになります。一番右端が協力をいただいている企業や大学です。外部からの御協力をいただきながら展開をしております。

具体的な事例として、機械科の事例です。ものづくり実践指導支援というもので、機械科特有の旋盤、フライス盤、その他の部分においても、企業の方の御指導を受けております。御覧のように、様々な企業が本校に来てくださって、生徒たちに指導をしてくれています。これはまさに実践的な力を身に付けるというところにつながっていると思います。

こちらは電気科の事例です。目的は同じですが、先程の機械科と違うところは、生徒が企業に出向き、企業の中で、技術指導を受けるということです。実際に企業で、社会人としての雰囲気や少し味わったりとか、緊張感を持った中で、技術を教えていただいたりしています。非常にいい経験になっています。

こちらは大学の先生に来校していただき、実習指導をいただいているところです。最先端の技術を教えていただく中で、基礎・基本の大切さや、柔軟な発想力の必要性などに生徒たちは気付いていっております。

こちらは化学工業科が実施している、県外へのインターンシップです。日本最大規模のプラントを直に見て、体験をして、生徒たちは視野を大きく広げています。企業様には宿泊場所を提供していただくなど、本当に手厚く、将来の人材育成に力を貸していただけていると感じております。

こちらは、インテリア科の、デザインに関する専門家からの指導です。こちらは工場見学をしているところです。どの学科でも工場見学をしていますが、一例として機械科のアイシン高丘東北株式会社様に伺った際の様子です。実際に製造されている製品の説明や、その製品がトヨタ自動車東日本株式会社に提供されているといった、作ったものがどこに提供されて、どう生かされているのかというところまで、現場で教えていただきました。

続けて国際交流です。昨年度から台北市立南港南高高級工業職業学校と交流を持たせていただいております。今年度は御覧のように姉妹校を締結いたしました。台湾で締結式を行いました。終始温かく迎えていただきました。先程、インテリア科で御説明をした森谷先生も一緒に行っております。今後はオンラインでの交流などから少しずつ、しっかりと進めていきたいと考えております。

こちらは横断的で柔軟な課題解決と題を付けさせていただいたんですが、昨年度、情報技術科が、キクラゲを栽培している農家において、工業技術を盛り込んだ農業会を行っていることを知りました。そこで経営者を講師としてお招きしての講習を行いました。実際に工業技術が農業の分野でどのように生かされているのかをお聞きしました。講師の方は一人でキクラゲを生産し、加工し、販売をしております。これは大変なことで、これを成立させるためにIoTの技術が必要と考え、手作りでスマート農業のシステムを構築しました。授業では実例を学ぶとともに、実際にインターネットを通じてスマートプラグというものを遠隔操作する技術を生徒たちは学んでおります。

こちらでも続きですが、その講師が今まさに困っていることに対して生徒たちは自分たちの今知っている知識、技術でなんとかしようと、アイデアを出し合って、解決策を考えました。それを皆の前で発表をしている様子です。これは生徒たちが今まで学んだことを総動員して、社会の課題解決ができないか考える取組の良い例ではないかと思います。

続けて、工業の魅力発信になります。私たちは日頃学んでいる知識と技術を地域の子供たちや中学生に、様々な機会を捉えて紹介をしています。その際、大切にしていることは、「体験を通じて」ということです。こちらは今年初めて参加したイベントですが、黄色いTシャツを着ているのは、皆、本校の生徒です。非常に喜んでいただきました。

**県工業高校
竹内正基 教頭**

最後に、中学校への出前授業についてです。中学生と高校生がコマを回し、どちらのコマが最後まで回っているかを競っているところです。コマは本校で製造しており、形をどうするのか、バランスよく金属を削るにはどうしたらいいのか、多くの工業技術が盛り込まれています。楽しさを通じて、ものづくりの面白さや工業技術の必要性などを発信しています。中学生の表情がすごくこやかで、私も好きな写真です。こちらと同じく出前授業の様子ですが、中学生が普段なかなかできないような体験をしてもらっています。下の写真は溶接の体験になります。

以上、本校の取り組みを御紹介させていただきました。このような機会をいただきましたことに、改めて感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。以上となります。

議長 川島会長

御説明ありがとうございました。大変参考になりました。それでは、審議に移ります。本日の見学と今の御説明を受けて、今後の産業教育に向けて、伸ばしていった方がよいところや、他の分野でも活かせるところなどについて、それぞれの立場から御発言いただけますでしょうか。

では、私から。今日、県工業高校に初めて来ましたが、本当にびっくりしました。少し早く来たため、校舎を回りましたが、進路指導部のところだったか、先程示されたように進学率が40%、昔は30%ぐらいで、最近上がっている、小さな会社でもいい企業がいっぱいある、多くの大企業から就職の話がきているなどの情報も載っていました。皆さん、主体的に将来のことを考えているという印象を受けました。

特に今日の話の中で、私がいいなと思ったことは、取り組みの④のところ です。色んな分野のことについて課題解決するという視点が、やはり産業教育の一番の魅力だと感じました。私がいつも感じていることは、大学生を見ていると、共通テストで疲れ切って入学してきているということです。学ぶことが楽しくなくなって入学してきています。今日見させてもらい、やはり学ぶことは、本当は楽しいことなんだということをすごく感じたことが、今日来て一番良かったことです。学ぶことの大切さのようなものを、産業教育はもっと伝えられるのではないかと感じました。

その他、皆さんから御意見をお願いします。

高橋 慎 委員

私は農業高校によく行きます。工業高校は初めて来ましたが、魅力ある取組が多いと感じました。実際に企業や、講師に来てもらって教えてもらう場面が非常に多いように感じました。また、学んだことを成果として発揮できる場が多くあるように感じました。興味があるものを自分なりに発信できているという場面が多く、楽しさがベースに見え隠れしていて、魅力があると思いました。

もう1つは、取得できる資格の一覧が並んでいましたが、こんなに多いのかと感じました。工業高校の資格取得も含めて、保護者の方は魅力を感じてらっしゃると思いました。私がよく見ている農業高校と取組む角度がまた違い、魅力的なものが多くありました。農業高校も少しまねできればと、見させていただきました。以上です。

議長 川島会長

ありがとうございます。その他ありますか。

後藤恵美子 委員

東北福祉大学の後藤です。今日見させていただいたら、生徒さんたちがこんなにも楽しそうに、また、質問すると生き生きと答えているということは、主体的な学びができているんだなと思いました。これを知る機会がもっとあったら、もっと関心を持つ中学生がいるのかなと思ったら、出前授業もしているということで、そのような取組が成果として生徒さんの主体的な学びになっているのかと思いました。

今御説明いただいた中から、3点ほど質問をさせていただきます。まず1点目は台湾の学校と協定を結んだということでしたが、この協定を結ぶことによって、将来どんなことが期待されるかということ、学校として狙っているかということが1点目です。2点目は、ものづくりの現場での実習とありましたが、現場に出向くということについては、普通の授業時間では間に合わないと思うので、カリキュラムの構成について教えていただきたいのが2点目です。3点目は専門的なことを行うがゆえに、ドロップアウトする生徒がいるかどうか気になりました。また、金賞を取った生徒では、本番は3時間の競技であり、その練習を一生懸命していたという話がありました。その練習時間に対する指導のシステムがあったらぜひ教えてください。以上です。

**県工業高校
山中弘記 校長**

台湾との姉妹校締結に関してですが、国際感覚というねらいが一つです。日本の風土で育ってきた子どもたちが、他国で育ってきた生徒との交流を通して、違った視点というものが確実にあると思いますので、そういったことをお互いに共有し合えるということが、今後期待できるのではと思っています。台湾に訪問させていただいた時に、向こうの生徒会長に「将来はどんな道を描いているのか」と聞いたら、「私は代議士になって、国とまではいかないまでも、色々な政策に関わっていきたい」というようなことを話していました。本校の生徒に「あなたたちはどうですか」と聞いたならば、「うーん」という感じで、やはりそこまでの視点というのはまだ本校の生徒たちにはなかったのかと思いました。そういうところを共有できるところが一つです。

あとは、台湾は半導体を含めてかなり工業技術が進んだ地域でもありますので、そういった地域と工業技術のやりとり、さらに技術的な情報交換というところでは、できれば台湾の修学旅行等で訪れた時に、半導体等の企業なども見学させていただくことで、様々なものが得られるのではないかと考えています。工業的な部分と国際的な部分という2つの大きな視点で、今後も生徒に取り組んでもらおうと考えております。

**県工業高校
竹内正基 教頭**

次にもものづくりの現場実習の件です。例えばクラフトマン事業等の活用においては、しっかりと授業の中に組み込んでいます。授業に講師を招き、実習の中で御指導を受けるという対応をしています。インターンシップでは、なかなか授業の中でということは難しいため、希望者を募って夏休み中に実習をしてもらうなど、色々と調整をしながらやっております。また、マイスター制度については、先程、部活動というお話をしましたが、主に放課後に指導を受けているという状況でございます。

3つ目の工業の勉強をしている中で、個人個人でその興味の度合い、ドロップアウトというようなお話がありましたが、実際に入学してから卒業するまでの間で、個人個人でその興味の度合いは様々あります。ものすごく興味を持って、工業の学びに邁進していく生徒もいれば、そこまでではないという生徒がいるのも現実です。ただ、どんな生徒に対しても、委員の先生方からいただいたお話のとおり、「工業って面白いんだよ」「ものづくりは面白いんだよ」ということを最後までしっかりと伝えながら指導をしているところでございます。最後の質問について聞き逃してしまったのですが、3時間の競技時間の中での、時間のことでしょうか。

後藤恵美子 委員

3時間の競技に向けて練習を重ねてきたとのことですが、最初は4時間ほどかかっていたのが、だんだん短くなってきたと伺いました。4時間も練習していたと考えると、指導にあたる先生方の御負担も大きかったのではないかと思います。そうすると、練習の時間をいつ確保していたのか、その指導体制についてもぜひお聞きしたいと感じました。

県工業高校
竹内正基 教頭

はい、ありがとうございます。私の知る限りになりますが、やはり最初は部分的に学習を進めます。例えば、最初から始めて「この部分までを区切り」として分けながら技術を磨き、それぞれの工程ができるようになると、最後に全体を組み合わせて通してやってみる、という流れです。したがって、最初から4時間通して毎行っていたわけではないと認識しております。

ただ、御指摘のとおり、先生方は非常に多くの時間を費やして生徒たちを指導していることは間違いありません。技術を身に付けるには時間がかかり、決して一朝一夕でできるものではないということを十分理解したうえで、生徒たちに向き合い指導を続けています。その中で、先程の話にあったように外部指導者を取り入れることで、より効率的かつ実践的な指導を計画し、実施しているところです。

議長 川島会長

ありがとうございました。はい、お願いします。

佐藤千洋 委員

東北文化学園大学の佐藤です。お話ありがとうございました。初めて工業高校にお邪魔させていただきました。私はメーカーに長く勤めておりましたが、工業高校を卒業した方が入社してくることもあり、その方が真面目に働いているというのは、こうした環境で学んできたからこそ、技術力も高く、マインドも高く持って仕事に取り組まれているのだと感じました。

お話を伺っていて、外部をとっても上手く活用していると感じました。うまく説明できないかもしれませんが、先生方は、例えば機械であれば製品の設計から加工まで、基礎的なことを教えるのは当然として、より高度な領域については専門性の高い外部にお願いすることもある。その結果、切り分けが非常にうまくできていて、連携も円滑に進んでいるのだと感じました。

それを踏まえて質問が2点ほどあります。約2,000社の求人があると伺いましたが、実際に県内に残る学生はどのくらいの割合になるのでしょうか。現在は人材不足で、首都圏からも求められていると思いますが、県内にどれほど残っているのか気になります。

もう1つは、外部との連携についてはよく理解できましたが、学科内での連携についてです。このパンフレットを拝見すると「化学工業科」があり、今日は視察がありませんでしたが、私自身初めて知りました。県内に同じ化学工業科が他にもあるのか、あまり耳にしたことがないので少ないのではないかと思います。そうすると、他の地域の化学工業科と連携して取組むこともあるのかと感じました。

また、校内・学科内での連携についても、例えば化学工業科では物質の性質や化学製品の製造を学ぶと思いますが、その過程でコンピュータの仕組みやソフトウェアの知識も必要になるはずで、そうした場合、情報技術科などと連携することがあるのかどうか、その点についても教えていただければと思います。以上、2点になります。

県工業高校
竹内正基 教頭

はい、ありがとうございます。まず県内県外の就職の割合についてです。昨年度卒業生が全部で259名いました。その中の県内企業に就職した生徒は、93名です。県外企業に就職した生徒が53名になります。このようなことから、県

**県工業高校
竹内正基 教頭**

内に残る生徒が多いのは事実ですが、県外に気持ちが向いている生徒も一定数、確実に存在しているところです。

続けて、学科間連携になりますが、そこは少し薄いところかなと感じております。それぞれの学科を御覧いただきましたが、実際にやっていることが全く違うという印象を受けていただいたかなと思います。学科が違うと昔は学校が違うとまで言われたところがございますので、実際に学びの差というものを、どのように連携で埋めていくのかというところは、これからの課題だと思います。ただ、御指摘のとおり、隣の学科に学ぶべきところは多々あるということは、はっきりと認識をしております。自分の学科だけではなくて、他の学科を少し見るだけで、自分の学校の中に学ぶべきところは多くあるというところは肝に銘じていきたいと思います。

最後に化学工業科になりますけれども、御指摘のとおり、化学工業科の県内における希望就職先というところでは苦勞しているところです。化学工業科の卒業生は、進学を希望する生徒が他の学科と比べて非常に多いです。本校の一つの特徴ですが、国公立大学を目指す、大学で自らの化学の学びを深める、そして社会で活躍する、そういったビジョンを描いている子供たちは多いです、化学工業科の教員もそういったことを十分視野に入れた指導体制を取って、国公立大学講習というような形で放課後実施するなど、生徒たちへのケアもしているところです。以上となります。

議長 川島会長

ありがとうございました。他に御意見等ある方いらっしゃいますか。よろしいですか。時間も限られていますので、頂戴した意見は、県の今後の施策の方に、活かしていただければと思います。それでは審議の2つ目に移りたいと思います。こちらは今後の産業教育の在り方について、(仮称)第4期県立高校将来構想答申中間案の素案を踏まえて、議論したいと思います。では、まず御説明の方を高校教育創造室の方からお願いいたします。

**高校教育創造室
永田 室長**

はい。宮城県教育庁高校教育創造室の永田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。私から少しお時間をいただきまして、次期県立高校の将来構想、(仮称)第4期県立高校将来構想について説明をさせていただきたいと思います。着座にて失礼いたします。

冒頭に副教育長からも申し上げましたように、急速な少子化の進行という状況変化を受けまして、現在の第3期構想の期間の終了を待たずに3年前倒しをして令和8年度からの構想ということで、現在、県立高校将来構想審議会において、検討いただいているところでございます。

構想の内容といたしましては、資料3-1にあります提言を踏まえながら、8月に骨子の取りまとめをいたしまして、今後地域の教育関係者の皆様の御意見をいただくことと並行して、現役の中学生、高校生、それから保護者アンケートを行いながら中間案素案をまとめました。

先月10月27日に将来構想審議会にて審議をしていただきまして、資料の4-1、資料4-2はその時の資料になります。中間の素案とありますのは、まだ中間案としては固まっておらず、今週末の審議会にて、中間案ということで固めていきたいという状況でございました。

資料4-1は概要版です。資料4-2の方を御覧いただければと思います。資料の下段、1ページ目を御覧ください。第1章に、将来構想の策定についての趣旨を記載しております。今申し上げたように、令和21年度における中学校の卒業生数というのは、現在よりも約7,000人、約4割が減少するということで、急速な少子化の進行というところと、人口減少の局面が今後継続するという点を記載しております。先程、資料2でありましたものは、令和10年度までということですが、こちらは令和21年度までを見据えたものということになっ

ております。2ページ目をお開きいただきますと、構想の位置付けといたしまして、令和21年度、14年後の本県の県立高校のビジョンを示すものとなっております。まず、このような考え方を示しまして、その後に具体的な学校配置の在り方などの実施計画を策定することなどについて記載をしております。それから4ページと5ページを御覧いただくと、これまでの高校の変遷と急速な少子化の進行というのを視覚的に分かりやすく示しています。一番左が昭和23年度からになりまして、一番右が令和21年度になります。後ろの山は生徒数ということで、棒グラフが学校数になっています。一番右の令和21年度を御覧いただきますと、昭和23年度の頃と同じようなレベルになってきているということと、右肩下がり、ここが底ではないというところが大きな問題だということとございます。

6ページが高校教育を取り巻く現状と課題といたしまして、先程申し上げた第3期構想に基づく取組について記載をしております。この中で、(2)学校づくりに向けた取組といたしましては、現状で大河原産業高校の新設に向けた取組、それから現在、令和9年度に向けて開校の準備を進めております大崎地区の職業教育拠点校、こういったものについて記載をしています。それから7ページが高校教育を取り巻く現状と課題といたしまして、社会経済環境の変化、(1)として、(ア)から(オ)まで、5つの項目としております。少子化の減少ペースが速まるということや、デジタル化やグローバル化の進展に対応する資質・能力が求められているということ。また、成年年齢の引き下げといったような変化について記載をしております。(2)は県立高校の現状と課題ということで、学習ニーズの多様化といたしまして、学校に登校していない生徒、それから中学校、中途退学者が増加傾向にあるということ、こういったことへの対応を記載してございます。それから9ページが、高校教育の創造的再構築に向けた考え方になります。基本理念(1)にありますように、こういった急速な少子化を踏まえて、これまでのように学級減で対応していくということではなく、学びの在り方を一から考えて、現在の高校全体を作り変えていき、新たな高校教育を創造していくことで、創造的再構築という定義をしております。(2)は生徒を主語にした高校教育の実現というところ、それから(3)が質の高い高校教育の実現でございます。そして10ページが基本方針として、(1)から(6)まで記載をしております。10ページ、11ページが学校配置の考え方で、圏域の考え方として、これまで7つの圏域でしたが、こちらを5つの圏域に見直すということにしております。それから12ページが学校規模の考え方で、現状の第3期構想では適正規模は1学年4から8学級にしておりましたが、今後の少子化を見据えて1学年当たりの適正規模を定めないことにいたしまして、先程申し上げた圏域ごとに必要な学級数を設定して、学びの質の確保の観点から一定の学校規模を確保するとしています。13ページは再構築後の姿として、圏域ごとのイメージ絵でも記載をしております。記載の内容のほか、定時制、通信制高校、それから市立、私立高校というのは、この枠外になります。14ページは第4章として創造的再構築に向けた取組についてです。(1)から(5)まで掲げています。16ページは時代のニーズに対応した高校の魅力化になりまして、普通科系の学びと、専門学科系の学びとを大きく2つに分けて記載をしております。専門学科系の学びは18ページからになり、農業、工業、それから水産に関わる専門高校の基幹校における大学や企業との連携によって先端技術に関する学びを充実させて、オンラインなども効果的に活用し、さらにその成果を学校間で共有していくということを記載しています。

19ページには②として、基幹校以外では、複数分野にまたがる知識・技術を身に付けて、より実社会と結び付いた総合的な力を育む学びの機会を提供するということです。それから先程、学科間の連携がございましたが、20ページに大崎地区の東部ブロックの職業教育拠点校のイメージ絵を記載しています。農

**高校教育創造室
永田 室長**

業と家庭と商業、3つを掛け合わせたという、まさに学科横断をして、新たな6次産業化に向けて、食をテーマとした職業専門的な学びを展開していくということで、令和9年度4月の開校に向けて準備を進めているところです。それから、23ページが多様な学びの在り方で、定時制、通信制などについて、また、特別な配慮や支援を必要とする生徒への対応について記載をしています。24ページの後ろから25ページにかけては、オンラインの効果的な活用になりまして、オンラインの拠点となるオンライン教育センターを設置して、効果的に活用していくところです。26ページから32ページまでは、学びの在り方を踏まえた上で、圏域ごとの今後の必要学級数の推移及び再構築後の姿として、令和21年までの学級数、それから中学校卒業生数のグラフ、主だった必要な学びを記載しています。最後に33ページが将来構想の推進といたしまして、学校、家庭、地域の協働の必要性などに記載しておりまして、2の(2)として外部リソースの活用によるニーズに応じた体制の確保を記載しております。外部企業との協力をいただいて実践的な学びを進めていく必要があるというところは、まさに人的な面や設備等も効果的に活用して進めていく必要があるというところで、記載をしています。

内容としては以上となりまして、この内容について今週末の県立高校の将来構想審議会で中間案として取りまとめて、今後パブリックコメントや地域の説明会を実施しながら、県民の皆様のご意見を頂いて、最終的に今年度中に構想の策定を予定しております。駆け足になりましたが、私からは以上となります。よろしくお願いいたします。

議長 川島会長

御説明ありがとうございました。ただいま高校教育創造室から次期県立高校将来構想答申中間案(素案)の段階ですけれども、御説明がありました。委員の皆様からは、本県の産業教育の在り方について御質問や御指摘いただけますと幸いです。特に専門高校の学びについては、18ページ以降に書かれていますので、もし皆さんから御意見、御質問があればお願いしたいと思います。

今時間が16時を過ぎているんですけども、この皆さんの中で御予定がある方、いらっしゃるでしょうか。大丈夫ですか。もし必要であれば退席されて構いませんので、よろしくお願いいたします。

私が口切りをいたしますと、私がこの産業教育の審議会に携わってから、やはり自分でも専門高校について全く理解してなかったとすごく感じる事が多くあります。

先程もありましたとおり、例えば今、工業高校の進学率が4割だということを私どもの大学もほとんど知らないと思います。そういった社会の変化に、工業高校、専門高校とかの変化に大学側も気付いていないし、社会も全然気付いていないという状況かと思いました。また、学ぶことの本当の意味のようなものを専門高校の方が早く見い出して、社会とつないで実践しているということがすごく分かり、そのことを魅力として社会に向けて発信していくことが大事だと思います。今の日本の社会全体は、やはり偏差値に引っ張られた職業選択、進路選択になっているので、その部分を変えていくためにも、本来どんな学びができるのか、将来どういう人材が育っているのかということで評価される社会が来ると思うので、今後も情報発信していったほしいと思いました。

その他、皆さん方からも御意見などお願いいたします。

高橋 慎 委員

私は最初に資料のタイトルを見たときに「人口減」という言葉から、配置やロケーション、機能を含め、集約しながらどう充実させていくのか、そういうテーマなのかなと思いましたが、結局この議論でどう変えていきたいのかというのが、今日の時点では少し読み切れませんでした。書かれていること自体はどれも適切で、まさに専門高校の現状を総括していると思います。ただ、その全体として「今からどう変えていくのか」という方向性については、少し読み切れなかったというのが正直な感想です。今日はその点だけをお伝えするにとどめたいと思います。

議長 川島会長

ありがとうございました。他に、オンラインの方からも御発言できる状況であればお願いいたします。

勅使瓦理恵 委員

名取高校の勅使瓦です。よろしくお願いします。今後の産業教育の在り方について聞かれているという理解でよろしいでしょうか。今、御説明のあった33ページのところにもあるような方向性なのだと思います。さまざまな生徒がいて、さまざまな生徒のニーズがあり、やはり産業教育というのは改めて大事になってきていると感じております。

そして、工業高校のさまざまな学科、3年間の学びの中の一部を見させていただきましたが、それぞれがそれぞれの目標に向かって、生徒も教員も頑張っている姿が見受けられました。何かをプラスして広げていこうというよりは、既存のものを時代に合わせて進化させて学びを深めていっているのだと感じております。今後もその環境や、生徒、社会が求めているニーズに合わせた形で教育を進めていかなければならないと思っております。そして今回特に、国際理解や国際教育といった部分について、工業高校ではどのように取り組んでいるのかと思っておりました。説明の中で、台湾との交流があり、海外の学びや生徒たちの考えを、交流を通じて深めて感じ取っていたということでしたが、これからこういう取組が必要になってくると感想を持ったところです。

それから少子化が進み、生徒数も減ってきて、オンラインによる授業という話も出てきて、効果的に活用できればいいと思う反面、今回の授業の様子などを見ていますと、様々な機材や器具を使いながら、隣の生徒と話し合いながら、教え合い学んでいる姿を見受けられました。

やはり工業高校のものづくりは、人づくりでもあるということを、私も同業者としていろいろ伺っております。ものをつくる過程において人との触れ合いがあり、そこで学びを深め、技術や知識だけでなく人としても成長していく。そうした点こそが産業教育の魅力だと思っております。

生徒数が減ってきて、教員の配置も難しくなっているところはありますが、オンラインでうまく対応できるところもあります。しかし、オンラインだけでは成立しない実技を伴った指導は改めて大切だと感じました。

また、外部との交流についても、外部人材を活用し、教員とは違った目線を持つ大人と授業を通して関わることで、学び、人としての成長といった部分がさらに深まっていくのではないかと思います。以上、感想を含めてお話をさせていただきました。

議長 川島議長

ありがとうございました。他に御質問ありますか。

佐藤千洋 委員

はい、質問なのですが、12ページにあります私立高校の授業料実質無償化についてこれはものすごく影響を与えてくると思っています。特に今、私立の高校の活動を見ていますと、英語に特化した教育だったり、ICTに特化していたり、探究学科など、カリキュラムに特色を出して、生徒を集めていると思います。そ

佐藤千洋 委員

うなってくると、この無償化によって、これから今まで経済的な事情で私立高校に行けなかった人たちが、自分の学びたいことや相性などを考えて私立高校に行こうとなると、ますます県立高校に行く学生が少なくなるなと思います。魅力的なカリキュラムを提示していかないといけないのではないかという懸念があり、それは専門高校にも言えることで、本当に魅力のある取組を見せていかないといけないと思っています。試算的に、どれぐらい生徒が私立に行くという計算はしているんですか。

高校教育創造室
永田 室長

ありがとうございます。試算は現状ではなかなか難しいです。まだ制度が完成していないということがあります。無償化の幅が、来年広がるという報道もありますので、まずそういった動向を見て、どういう動きになっていくかをよく見ていかなければいけないと思っています。

計算できているかというところですが、そういった変化というのは今後変わっていく部分だと思います。そこを見ながら、必要学級数というのは都度見直していかなければいけないと思っています。また、御指摘いただいた、公立も魅力化が図らなければいけないというのはまさに御指摘のとおりでして、10ページの2の(2)基本方針のところに、スクールミッションという形で、各高校はこういう役割があるということは、現状でも規定しています。

ひょっとすると今、公立高校の中でも位置付けが重なるようなところがある可能性もあります。そういった部分を改めて再定義し、各学校が「この学校はこういうことをやっていく」という特色を強く打ち出していく。そうすることで魅力化を図り、アピールも当然必要になってくると思います。そうした取組が今後ますます重要になってくるのではないかと感じています。

ただ、総論でいくと、私立が選択肢に入るとするのは、生徒にとっては選択肢が増えるということでもありますので、必ずしも悪いことではないと思っています。そういった意味で県立も私立も互いに切磋琢磨をして、魅力を高めていくことは全体として必要なことと思っています。

議長 川島会長

ありがとうございます。はい、お願いします。

後藤恵美子 委員

私からは、会長から「社会の理解がもっとあったらいいのではないか」というお話があったかと思いますが、産業教育の魅力発信の発表会について申し上げます。これは生徒が発表するだけではなく、例えば卒業生が「この学校を出たら、こんな今があるよ」と伝えたり、さらには企業の方や地域の人も一緒に参加して、「ここで学んだことがこんなところまで発展するんだよ」と発信したりすることで、親御さんや地域の方々にも魅力が伝わるのではないかと思います。

そういう意味での魅力発信の方法は、生徒だけでなく、関係する人を巻き込むことで、社会全体の広がりや企業とのつながりにも結びついていくのではないかと感じました。提案というよりも、感想も含めての発言とさせていただきます。

議長 川島会長

その他、御意見等ありますか。

よろしいですか。ここまで委員の皆様には様々な御意見をいただき、どうもありがとうございました。急速な少子化を踏まえた専門学科、専門高校の在り方について、また、今後の産業教育の充実に向けて参考となる御意見をたくさん頂戴いたしました。なお、本日皆様方から頂戴した意見は、後日、議事録としてまとめていただき、事務局より委員の皆様にお送りして確認していただきたいと思っています。よろしいでしょうか。

その他、委員の皆様から特にないようでしたら、これで審議を終了いたします。ありがとうございました。それでは進行を事務局へお返しいたします。

事務局 渡邊総括

川島会長、どうもありがとうございました。それでは「5 その他」に入ります。事務局から説明いたします。

事務局 村上

はい。その他として1点御連絡させていただきます。本日の審議において発言しきれなかったことや、お気づきの点がありましたら、お配りさせていただきました資料7に意見用紙に御記入の上、11月18日火曜日までに御返信いただくよう、よろしくお願いいたします。事務局から以上となります。

事務局 渡邊総括

その他、議員の皆様方から何かございますか。よろしいでしょうか。それでは、本日は貴重な御意見をいただきありがとうございました。以上をもちまして、令和7年度第1回宮城県産業教育審議会を終了いたします。本日はどうもありがとうございました。